



TITLE:

<批評・紹介>蒙古時代に及ぶ東方回教國に於ける銀の流通

AUTHOR(S):

宮川

CITATION:

宮川. <批評・紹介>蒙古時代に及ぶ東方回教國に於ける銀の流通. 東洋史研究 1938, 3(4): 361-366

ISSUE DATE:

1938-04-20

URL:

<https://doi.org/10.14989/145613>

RIGHT:

批評・紹介

蒙古時代に及ぶ東方回教國に於

ける銀の流通

Robert P. Blake ; The Circulation of Silver
in the Moslem East down to the Mongol
Epoch. (Harvard Journal of Asiatic Studies
1937, vol. 2. No. 3 & 4.)

西紀一千年から約二世紀半の間著甚なる銀の缺乏が回教世界を襲ひ、その間金 dinars と共に卑金屬貨幣の流通を見たのみであつたが、一二六〇年頃に至り、俄然銀貨が多量に再び流通し始め三十年程して殆んど全領域に亘り流通の回復を見た。この原因として貨幣學者・經濟史家の主に政治的變動に歸する意見が提出されてゐるが、自分は新たに問題を考へ直さねばならぬと感じ友人の助力を得てこの専門外の分野の諸史料の示す重要性を考へた。十八世紀以來、北ロシア草原・バルト海沿岸並びに諸島、南部瑞典の畑や河岸より樺・

袋土器に入つた貨幣の堆積が多量に且つ久しきに亘り發見され、その種々な型式や年代の調査研究は Heyd 及び A. Markov によりなされた。Markov はササン朝その他回教國貨幣を含む堆積を取扱ひ、銀が北方で蓄積されたから回教世界から影を没したといふ從來の説の不當を指摘したが、とも角北歐の未開人と南東の開化した近接民族との商業の活況を雄辯に物語つてゐる。回教國の貨幣は Harun-al-Rashid の治世 (796—814 A.D.) と Turkestan の サマン朝 (特に 909—955 A.D.) のものが多量で十世紀をすぎると急に少くなり 1012 A.D. のものを最後にする。Makrizi に據れば 1009 A.D. 以後數年 Baghdad では銀が鑄造されず卑金屬が印造されたと云ふ。この現象の解釋にはトルキスタンを中心にしてカリフ領東北諸州の經濟的發展を見なければならぬ。ササン朝はオクソス・ヤクザルテス二河谷及びソグディアナ・トランスオクザニア諸州を完全に支配した事なく、エフタルの滅亡 (550 A.D.) 迄これら人口稠密に文明榮えた地域はイラン系民族の支配下にあつたが突厥可汗の創業 (565 A.D.) と共に

政權は永久に非イラン民族に奪はれたが、その文化は存続しアラブの侵入(cir. 648)に及んだ。吾等は遺跡遺物の外に Tabari, Ibu-al-Athir 等アラビア史家の記述によりこの地方の文化を知りうる。七世紀中葉西突厥可汗が統治したといへ地方政務は *dihqans* (封建領主) が行ひ城郭に住む恐らく可成のシリア人を含む富商階級が存し、人民は勇敢ではあるが宗教を異にし協和しなかつた。貿易は著しく發達しイラン文化の東方傳播もマニ・キリスト教徒の植民地を過る商業路によつてなされた。ペルシアはササン朝時代に陸海世界貿易の霸權を有し王國はその滅亡の前夜に最高の光輝を發してゐた。北ロシアの貨幣の堆積は二河を下り、Turgai 草原を通じて、西部シベリア森林地帯及上部 Volga 流域との貿易が後期ササン朝で始つたことを示す。Andijan, Kashgar 間の稍容易な通路を経て東へゆく隊商貿易は數世紀に亘り存してゐたが、支那と北狄との鬭争の爲の危險が安全な海路を選ばしめた。アラブ人はトルキスタンに軍事植民地を作つたが、西突厥との關係上ソグディアナでは容易にトランスオクザニ

アにては不安定であつた。二河の流路を掌握し北方市場との直接結合を確保し、イラン人の間に回教文化が光被した。東突厥の混亂と同時にこの地方で起つた反亂はバグダッドに於けるアッバス王朝の建設(751A.D)となつた。八世紀末にこの地方の經濟史上重要な通貨の變改が行はれた。その史料は波斯人の史家 *Necchi-khy* (*Narān*) の記述で倫敦大學 H. A. R. Gibb 教授の譯によると下の如くである。

「カリフ Abu Bakr as-siddiq の世、Bukhara の王 *Kanā Bukhār Khudāt* は木綿・穀類貿易商の請を容れ彼の冠をつけた頭像を印した純銀の貨幣を他國に倣つて造らせた。Hārūn ar-Rashīd の時になり王の母の兄弟 *Chīrīf b. 'Ata* が *Khurāsān* の太守となつた。時に *Khwarizm* の銀貨は人民に喜ばれず、上記のブカラ銀貨はなくなつてゐたのでブカラの有力者達は *shirīn* に昔のブカラ銀貨と同じ型を鑄て死藏したり、市外へ持ち出されず流通する様に要請した。銀價が貴かつたので議して六種の物質、即ち金・銀・麝香・鉛・鐵・銅で貨幣を造り *Chīrīf* 俗に *shidrit* と呼んだ。純銀

でないので黒變し、ブカラ人は拒んだが政府は強制した。⁶ ghidriř は純銀 1 dirhem の割と定め納税に用ひしめた。ブカラの地租が重くなつたのはこれに因る。 ghidriř dirhem が銀 dirhem と同價になるや…… Muhammad b. Ja'far は、某年には二百二十 dirhem の純銀が八十五 ghidriř dirhem に値ひしたと云ふ。 Ahmad b. Nasr は 522 A. D. に當る年に純銀百 dirhem が七十 ghidriř dirhem に値ひし法律では mithqāl は 七・五 ghidriř dirhem に値ひしたと書いてゐる。 Muhammad b. Ja'far はこの ghidriř はブカラの Mahak 城で刻されたと云ふ。 ghidriř の銀は外の合金よりも多量で且少量の金を含んでゐた。ブカラでは大量の小貨が造られサマン王朝及び以後にても造られたが文獻の徵すべきものが無い。」(大要)

Nerchakhy によればアラブ以前のブカラ銀貨はササンの貨幣と共にアラブ勢力下で一世紀半流通し、北方貿易が發達するや Khwārizm を通つた。八世紀にカリズム貨幣がトルキスタンで流通したといふ事はブカラに於ける銀の購買力がカリズムより高く、トルキ

スタンに比しカリズムの商業上の優勢を物語り、アラブ以前の通貨が一般的地方的原因で市場からなくなり恐らくカリズムに流れ込んだでつたであらう。

ブカラの富商等の要求には貿易をすゝあ近接地よりも高い生活費を引下げる目的が見られ、これは九世紀のカリフ諸國で屢々見うけられる。(Sauvare) 新貨は六十六%の貴金屬を含み、ブカラの銀價暴落し集められた金額は中間の爲替操作なしにバクダッドへ直送されるといふ事實が政府當局の利益を來した。ブカラに於ける貿易の活況の増進が他地方の銀に比しその地方の通貨の價値を高めたのである。トルキスタン・コラサンで流通したものには外に musayyabi と muhammad dirhem がある。 ghidriř は當初から政府の統制により便益をうけ、舊 dirhem の購買價値は下りブカラ地方の銀の購買價格を引下げると同じ効果あり、ひいて購買力を増進した。新通貨の發行が保たれたなら、州の取引高により要求される限界内においては、一、銀の輸出 二、銀の購買力の減退 三、その地域の商業活動の増進ありとせば新通貨の購買力を増すと

いふ傾向がみえる。かゝる一聯の事件はサマン王朝の興起(863 A. D.)と時を同じうする。ブカラとバクダミドの結合の稀薄は地方通貨に利益をあたへ税は低く國は榮えた。十世紀初頭の銀のトルキスタンへの流出は Magdisi により知りうる。アッバス朝 (751—1258 A. D.) に於てカリフの勢力失墜し周邊部に新國家形成され、特にサマン朝に於ける商業は重要であり、ヴォルガとトルキスタンとの貿易の股賑は、863—975 A. D. 時代の北ロシア貨幣により證せられる。北方からトルキスタンに糞らされたのは主に奢侈品でありトルキスタンの商人は銀を以て換へ、東方奢侈品を多少輸出した。北ロシアのモスレム貨幣の蓄積は南方のウクライナに於けるビザンツ銀貨より多い。この銀の引止及び 1000 A. D. 以後の貨幣が発見されないうゝ事實は貿易の斷絶は輸出の中心に作用する要因に歸せられ、それが輸入された地域のそれではないことを示す。中亞の政治上の事象と結び考へる時、何故アラブ銀が北及北西へ輸出されなくなつたか、同時に東方回教國で銀の鑄造が急に止んだかを説明する。サマン朝

は Zarafshan 河谷より産出する銀を鑄た。九世紀後半アラブはアルメニアの産金地帯を失つたので十世紀アッバス朝の銀はトルキスタンから供給されたと推察される。十世紀後半キエフの Varangian が東方 Khazar 國を征服し、又草原遊牧民の反亂がヴォルガ河畔の Bulgar 王國を荒廢させた。こゝは生産物が北から運ばれ、そこからツルガイ草原を経てトルキスタンに舟で運ばれた市場である。この商業の斷が既に中亞から輸出された銀を生産の中心である北ロシアに留めたのである。北ロシアと中亞の商業の原因には外にトルキスタンに働らいた要因がある。サマン朝は内難と突厥の侵入の爲衰微し、ザラフシヤンの鑛山を失ひ、(cir. 975 A. D.) 三十年後 Qara-Khonds とガズニの Mahmud とに攻められ亡んだ。 Mahmud はパンジヤブを征し、故土を誅求して奢侈に耽つたのでこの時銀はトルキスタンからインドに輸出され、銀は東方回教國及全イランから奪ひ去られた。時にコラサンにセルヂュク・トルコが興起し西してイラン・アナトリアを征し、トルキスタンに流通する限りの銀をかりさつ

た。かゝる現象はビザンツと北方との貿易には見られない。舊貴族制度は亡び軍事的 *feudal* 制が (*iqta*) トルコ君主下に成立した。一世紀後代つゝ *Gurganj* に都する *Khwarizm-Shahs* と *Qara Khitai* が並立し、前者の方が盛んでモハメッドの時全トルキスタン・コラサン、ペルシアの大部を統一したが、傭兵制の脆弱は成吉思汗のひきゐる蒙古族の亡ぼす所となり、蒙古は空前の領土を開拓した。蒙古人は夙に商業を事とし、新疆とゴビ沙漠を支那につなぐ陸商貿易は當時回教商人により行はれた。蒙古人が支那を統治するや漢族の歴朝にならひ *balsh* を發行した。支那史料が *state note, fiat money* と名づくべきことを示してゐるに反し、西方史料は國境に於て銀と交換に得べく國外への出發又は國內に於る特殊な場合、同じ媒介物に換へられるものなる事を明らかにしてゐる。著者は次に元史 (卷九十三) 食貨志の鈔の條を掲げ Gardner 氏の新英譯を附し Pauthier 譯の數字上の誤謬を指摘してゐる。鈔の數次の價の下落と支那・西域間の銀の購買力の廣幅の變化のため西方通貨の關係に於ける發行の等價を樹

立せんとする利益は少かつた。世祖以前の征服時代蒙古が交鈔を用ひた目的は明かに支那に流通してゐる銀の相當な量を驅逐することであつた。この事は元史 (卷百四十六) 耶律楚材傳に述べられてゐる。(Rémusat の舊譯の代りに Gardner 氏の新譯文を掲げてゐる) 蒙古人の意圖は出來うる限り多くの收入を支那から得ることであつた。支那の事情を熟知してゐた楚材は金末の破壊された行政機構をたて直して收入を計る様にすゝめ採用された。證劵の發行が物價を上げたので 1264 A.D. (世祖至元元年) 政府は各路に交鈔庫をたて十萬錠の鈔母 (準備銀) を設けた。支那で鑄造された銀貨は流通してゐなかつたが交換の媒介として用ひられた。(加藤博士) 銀がこの時代多量に支那から輸出されたことが分る。交鈔の濫發が財政困難を物語る。1287 A.D. 地方の庫を復活し、流通せる貴金屬を全て押收せんとし、従前の倍價にて交鈔を發行した。マルコ・ポーロや Pegolotti によると、交鈔は國境で銀にかへられたと云ふ。國內で流通が制限されてゐたから當然である。銀の國內額は輸出により減少しなかつたが銀價は

通貨膨脹に伴ひ暴落した。政府は自由な銀を押収し金の準備により遊離せる流通を助けんとした。元代の鈔は國庫で回收できるとは書いてない。蒙古の統治は北支に於て繁榮をもたらし銀は長い間多量に西方へ輸出された。クリルタイに於る分配がその量を若干指示する。西方に於て貿易者間で流通した。この時代西部で鑄られた銀貨は元來支那のものである—アンチモニーを含み白く見える—ことを冶金學が證する。『Tribization』や『Cypria』で得られた通貨は「白」とよばれた。

銀は蒙古の勢力下の草原に還つた。エジプトに於ける銀の供給は明かに不足した。これと同時に西方イタリアの商業都市は金を鑄はじめた。『The Levant had gone over to silver at the time when the west went on to the gold standard.』

H. J. A. S. の本號には外に左記の論文をのせてゐる。

Boodberg, Peter A., Some Proleptical Remarks on the Evolution of Archaic Chinese.

Hu, Shih, A Criticism of some Recent Methods

used in Dating Lao Tzu.

Read, Thomas T., Chinese Iron—A Puzzle.

始め四つ共紹介する筈であつたが時日切迫の爲できなかったことを御斷りする。(宮川)

正 誤 表

晉の太山竺僧朗の事蹟 (東洋史研究 二第三卷第三號)

—五胡佛教に對する省察—

頁行	誤	正	頁行	誤	正
三三	竺	竺	四〇	卷三十四	トル
三五	四土	士	四〇	又名崑崙山	又名崑崙山
二六	はとなのら	となのは	四一	崑崙作崑	崑崙作崑
二六	今關未平	平の下に事を補	四二	相貌	相貌
三三	蘇	蘇	四三	既至堅每	既至。堅每
三六	慧遠	慧遠	四四	興	興
三六	秦靖	奏請	四四	後漢書	後漢書